みんなで育てる地域福祉

福島市

一人暮らしの高齢者を招いた茶話会による地域交流

～特別養護老人ホームはなしのぶ茶話会～

茶話会で行われたベンチサッカー。2班が椅子に座って向き合い、その間を通るボールを、棒を使って奪い合い、ゴールを狙います。予想以上に、試合は白熱！

取材協力

社会福祉法人わたり福祉会
特別養護老人ホームはなしのぶ

〒960-1103 福島市平石字堰ノ上3
TEL(024)544-0711

田んぼやぶどう畑が広がる、のどかな福島市平石地区の特別養護老人ホーム〝はなしのぶ〟。地域に根付いた施設を目指し、地域事情に精通した民生委員・ボランティアとの連携のもと、一人暮らしの高齢者を招いての茶話会を3地区に分けてそれぞれ年1回開いています。団欒や運動をまじえて交流を図るこの茶話会は、高齢者だけでなく地域の元気の源になっています。

茶話会を通して地域の交流の場へ

「茶話会に参加したことで、老人ホームに対するイメージが変わり、デイサービスの利用につながった方もいました」と施設長の佐藤和子さん。

「私たちがまず地域のことを知り、そして〝はなしのぶ〟を広く地域に知っていただき絆を深めたい。そう思っていたところ、民生委員とボランティアの方から、家にこもりがちな一人暮らしの高齢者を招待して茶話会を開いたらどうかとアドバイスをいただきました。お茶を飲みながらの団欒とレクリエーションの場を平成20年から設けています」と教えてくれたのは施設長の佐藤和子さん。

茶話会は、平石地区・小田地区・山田地区の民生委員とボランティアの協力を得て、それぞれの地区ごとに年1回、〝はなしのぶ〟で開いています。毎回20人ほどの参加があり、〝はなしのぶ〟と高齢者、また高齢者同士の触れ合う機会になっています。平石地区においては、平石小学校の学習発表会と合同で行う独特の形をとっており、当日は子どもたちの保護者なども集まって賑わいます。以前は高齢者が平石小学校に出向いていましたが、体育館よりも小さな会場のほうが子どもたちと触れ合えると考えました。「一緒に楽しい時間を過ごし、〝はなしのぶ〟ってこんなところなんだ！ と知ってもらえるきっかけになれば」と佐藤さんは笑顔で話してくれました。

「活用してもらいたい」「活用したい」双方の思いを合わせて

「私たちと高齢者の方はもちろん、〝はなしのぶ〟さんとの関係もより良いものにしていきたい」と平石ボランティア代表の遠藤千代さん。

〝はなしのぶ〟が地域と結びついたヒントを、平石ボランティアの中心となって活動している遠藤千代さんは次のように話します。「普通、地域には長寿会や老人会によるつながりがありますが、平石地区には会がありません。地域密着を目指す〝はなしのぶ〟さんには地域の方に施設を使ってほしい、私たちには親交を深める交流の場にしたいという思いがありました。それを実現する方法のひとつが、住民の方を招いた茶話会だと考えました。地域に通じている私たち民生委員やボランティアが中心となり、一人暮らしの高齢者の方に声を掛けました」。

民生委員の丹治勝子さん・渡辺京子さんと、平石女性部部長の横山喜久子さんも、高齢者の家を回って参加者を募りました。「回覧板でお知らせするよりも、やはり声掛けが大事です。昔から同じ地区に住んでいて顔なじみである私たちが、〝送り迎えはするから行ってみない？〟と誘うことで、一歩踏み出してもらうきっかけになります。たくさんの方が集まって交流を図り、〝来て良かった〟と言っていただけたら嬉しい。私たちもお世話になるかもしれない〝はなしのぶ〟さんの茶話会を持続させ、次の世代の民生委員やボランティアにつながるようにしていきたいです」と目標を教えてくれました。

“はなしのぶ”の地域交流スペースでは今回の学習発表会と併せて“芸術祭”も開催されていました。利用者が作成した手芸品や平石小学校の子どもたちの絵画などが飾られていました。

左から民生委員の丹治勝子さんと渡辺京子さん、平石女性部部長の横山喜久子さん。「〝はなしのぶ〟さんを地域の交流の場としてどんどん利用させてもらいたいです」。

〝はなしのぶ〟から元気を発信。平石地区のシンボルに

この日は、平石地区の茶話会の日でした。平石小学校の学習発表会のあと、14人が茶話会に参加。まず、軽い運動のあと4つの班に分かれてベンチサッカーが行われました。試合が始まると、参加者は真剣そのもの！ 佐藤さんは「いつもおとなしい人が、はじけていました！」と参加者の意外な姿に驚きながらも嬉しそう。茶話会への参加が2回目の女性は、「久しぶりに体を動かして気持ちが良かった。普段は家にいるばかりなので、ボランティアの方に誘ってもらい、みんなと一緒に楽しむことができて良かった」と笑顔を見せました。さわやかな汗を流したあとは、お茶で一休み。普段はどうしても口数が少なくなってしまう一人暮らしの方も、たくさんの人と会話を交わし、表情を輝かせていました。

「今年一番の頑張りでした」とベンチサッカーの参加者。大盛り上がりでした。

体を動かしたあとは、お茶とスイーツをいただきながら団欒。話にも華が咲きます。

〝はなしのぶ〟では茶話会のほかに夏祭りなどを開催し地域交流を図っています。「参加者の方から〝ありがとう〟〝また来るね〟という声を聞くことができると〝はなしのぶ〟のパワーになります。そのパワーをもとにまた私たちが地域に元気を発信し、いつまでもその人らしく暮らし続けることができるよう支援していきたい」と施設長の佐藤さん。〝はなしのぶ〟の近所に保育園や学童保育ができたおかげで、子どもたちを目にすることが多くなり、利用者の表情も明るくなったそうです。〝はなしのぶ〟から、新しい支え合いのかたちが広がっています。